

牧之郷駅周辺整備完成について

調査結果

利便性の向上：駅周辺の交通整理が改善され、利用者の利便性が向上していることを確認しました。

憩いと交流の場：小さな公園的整備が行われており、地域住民が憩いや交流を楽しめる場所となっています。

イベント利用：今後、イベントやフェスタの開催に適したスペースとなる可能性が十分あると確認できました。

提言

牧之郷駅ロータリーの整備により、地域住民の利便性が大きく向上したと評価できます。また、公園的な要素の導入により、地域の交流の場としても機能していることが確認されましたし、イベント利用に関しても、今後の活用が期待されます。

・イベントやフェスタを行う場合、来場者の駐車場の確保が必要と感じました。特に集客が多くなる規模イベントの際には、周辺の駐車場施設や臨時駐車場の設置を検討することが重要だと考えます。

結論

牧之郷駅ロータリーの整備は、利便性向上と地域の交流促進に寄与していることが確認されました。今後も地域住民のニーズを反映しながら、さらに利便性を高めていくための取り組みが求められます。

萬城の滝（駐車場・展望台）の整備完成について

調査結果

駐車場：普通車35台、大型車5台が駐車できるアスファルト敷きの駐車場が利用開始されました。なお、駐車場横の法面の整備は来年度に予定されていることが確認されました。

滝壺の展望台：滝の近くまで行くと水しぶきを浴びるほどに接近できる展望台が完成しました。

提言

展望台のデッキ：デッキは自然の風合いを残しつつ、腐りにくい素材で作られていると説明を受けました。

手すりの不足：展望台の側面（滝壺と反対側）に手すりが不足していると感じ、来場者の安全確保の為、落下防止対策が必要だと考えます。

結論

萬城の滝の駐車場および展望台の整備は素晴らしい出来上がりです。工事に携わった方々は、トラックや重機が入れない場所での作業で大変だったと思います。

先日、萬城の滝フェスタに参加しましたが、多くの方が展望台で記念撮影をしていました。

工事にかかわった多くの方々に「お疲れさまでした」と伝えたい。

旧八岳小学校の現地調査について

調査結果

老朽化した校舎とプールの解体：今後、老朽化が進んだ校舎とプールを解体する予定です。

コンピューター棟の保存：校舎の一部であるまだ新しいコンピューター棟だけを残し、地域づくり協議会や避難地としての利用を目指す計画が確認されました。

比較対象の情報

千葉県では廃校を利用した宿泊施設などの事例があります。今後、総務経済委員会では伊豆市の廃校がある環境と類似している場所への現地視察を今後予定しています。それらを視察して伊豆市の廃校にも可能性を探したいと思います。

結論、提言

旧八岳小学校の現地調査により、今後の校舎およびプールの解体計画と、コンピューター棟の保存と利用計画が確認されました。解体前に市民に校舎内の物品を譲渡することで、解体費用の削減を図ることができるのではないのでしょうか。

冷川浄水場施設の現地調査について

調査結果

水道供給の大変さ： 広い市内への水道供給の難しさを実感しました。特に、古い施設の今後の運営を限られた人数の職員で管理することの困難さが明らかになりました。

24 時間対応の必要性： 施設に異常が発生した場合、24 時間体制で対応する必要があります。素晴らしいシステムを導入しましたが、昼夜を問わず通知が来るため、常に気を配らなければならないことの大変さを感じました。

提言

今後の維持管理においては、ICT 化やデジタル技術を駆使して更なる効率化を図り、運営する人の負担を軽減するよう尽力していただきたいと考えます。

結論

冷川浄水場施設の現地調査により、広い市内への水道供給の難しさと 24 時間体制での管理の大変さが確認されました。ICT 化やデジタル技術を導入することで、今後の運営をより効率的に行うことが重要です。

橘保育園跡地の利用について

調査結果

住宅の分譲検討： 跡地利用として住宅の分譲を検討していることが確認されました。民間事業者からの提案により、伊豆市ならではの「ゆとりある居住空間」をイメージしていることを理解できた。

民間事業者による開発： いくつかの民間事業者から提案を受け、住宅地の開発を民間事業者に任せる計画があると聞いた。

土砂災害特別警戒区域： 土地の一部が土砂災害特別警戒区域であるため、年度内に法面对策を実施する予定という事で早めに対策をしていただきたい。

結論

橘保育園跡地の利用計画は、住宅分譲を通じて伊豆市ならではのゆとりある居住空間を提供するものであり、地域の景観や住みやすさを促進することを期待しています。また、土砂災害特別警戒区域の法面对策も含め、良い提案を持った事業者が表れていただける事、計画が順調に進むことを願っています。

修善寺虹の郷の現地調査について

調査結果

来場者数の回復と課題： コロナ禍で減少した来場者数も、様々なイベント企画や努力により年間 15 万人まで回復しましたが、そこからの伸び悩みが見られるようです。

施設の老朽化： 施設内の建物の老朽化が顕著であり、管理運営に苦勞していることが伺えました。

提言

30 年前は花や自然が多く観察できる施設として全国的にも珍しい存在でしたが、現在は時代の変化もあり、来場者数の伸びが難しい状態となっています。

これまで多くのイベントを企画し、実行してきた運営側の企業努力は十分に評価できます。コロナ禍が明け、観光客が戻りつつある現在、伊豆市の施設として広大な敷地を活かし、さらなる発展を目指すべきです。行政や議会もその後押しをするべきだと考えます。

結論

修善寺虹の郷は、来場者数の回復が見られるものの、施設の老朽化やさらなる来場者数の増加が課題となっています。広大な敷地を活用し、行政と議会の支援を受けて、投資を続けることが今後も発展を続けることにつながるのではないのでしょうか。今後も期待しています。